



【第3号】2006年7月31日発行

【発行】柏書房株式会社
〒113-0021 東京都文京区
本駒込 1-13-14
☎03-3947-8251(代表)
〈題字〉林英夫

非売品

※版本だつて面白い

江戸っ子たちの姿が ぐつと身近に

「古文書かわら板」第三号をお届けします。

巻頭対談では、弊社刊『江戸かな古文書入門』、『寺屋式古文書手習い』などの著者である吉田豊さんと、往来物研究の第一人者である小泉吉永さんをお招きして、江戸時代の版本の面白さや魅力についてお話しいただきました。

(司会・編集部小代渉)

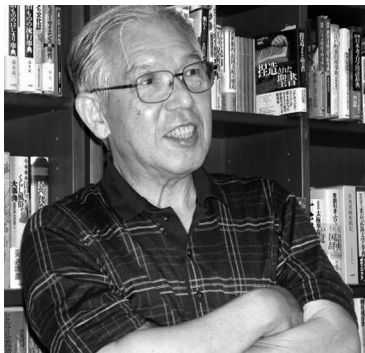
※食わず嫌いの版本

——古文書学習者の多くは版本に対してなかなか目が向きません。古文書で精一杯ということもあるでしょうが、その前に版本に対する知識の不足もありそうです。今回は、古文書と版本との相互交流をはかりたいと思っています。まず、版本にはどのようなものがあるのか、簡単に教えていただけますか。

小泉——まず、版本とは版本に彫って印刷された書物のことです。この点が古文書とは違いますね。代表的なものは「往来物」^{おうらいもの}、これは読み書きの入門・教科書で、江戸時代を通じてさまざまなタイトルの「往来物」が作られました。子どもや女性向けのものもたくさんあります。「往来」とは、もともとは「消息往来」のことで、書簡（手紙）文の模範文例のことです。

それから「重宝記」、これは生活マニユアル

くずし字を十個覚えれば
七割くらいは読めてしまうのが「草双紙」です（吉田）



吉田豊（よしだ・ゆたか）

—— 1933年福島県生まれ。國學院大学文学部卒業。生涯学習1級インストラクター（古文書）。現在、文京学院大学生涯学習センターをはじめ、首都圏の自治体主催の古文書講座で講師を務めている。

の類で、礼儀作法や家庭医学なども含まれています。また「節用集」という、今でいう辞典があります。

「道中記」は旅行ガイドブックです。これは江戸中後期になって、「名所図会」へと発展していきます。なかでも『江戸名所図会』は有名ですね。

吉田——大衆文芸・娯楽的なものもたくさんあります。まず「仮名草紙」に始まり「草双紙くさふし」に至る「江戸かな」（※編集部注、「江戸かな」は吉田氏の造語です）で書かれた小説・随筆の類。「草双紙」は絵入りの小説で、何十年もかけて書かれた長編もあり、有名な浮世絵師が挿絵を書いたものもあります。「草双紙」に出てくるくずし字はそれほど難しくないのです、十個程度のくずし字を覚えれば、誰でも七割程度は読むこと

ができます。初心者にはまず「草双紙」をおすすめします。

また、江戸中後期には戯作物げさくものといわれる、人情本、滑稽本、洒落本、黄表紙などの小説が出てきます。いずれも庶民が対象です。庶民向けに作られたものは、出てくる「江戸かな」のくずし字が限定されてきますので、これも初心者にはピッタリです。

小泉——そうそう、「百人一首」を忘れていました。これは江戸時代に千点以上作られています。「百人一首」は女性の学習用教科書として使われていました。吉田さんの書かれた『江戸かな古文書入門』にも収録されていますよね。歌が分かっている訳ですから、くずし字を学ぶには最適ではないでしょうか。当時の裕福な家庭の女性は「いろは」を学んだあとに「百人一

首」、それから「往来物」を学んでいきました。「百人一首」は必須の教養だったわけですよ。

吉田——確かにくずし字の学習という点からいえば、拙著『江戸かな古文書入門』で「百人一首」を取り上げましたが、「百人一首」に出てくる「江戸かな」のくずし字は多様で、まったくの初心者にとってはちよつと難しいかもしれません。

小泉——そうですか。

吉田——「江戸かな」は一音一字（かな一字）ではなくて一音多字ですが、「百人一首」には、わざと多くの「江戸かな」が用いられています。それゆえ「百人一首」はちよつと難易度が高いですね。でも、最終的にはさまざまなくずし方の「江戸かな」を覚える必要があるわけですから、学習効果が非常に高いことは間違いありません。

「往來物」には江戸時代のあらゆることが書かれているので

最良のテキストになります（小泉）

❖江戸時代のこと何でもわかる

—— 版本にはいろいろな種類があつて、どれも面白そうなものばかりですね。それでは、実際に版本を読むことでどんなことがわかってきますか。また、その魅力などについてもお聞かせください。

吉田—— 一言でいえば、当時の世相や流行がリ

アルにわかるということでしょう。挿絵を見れば髪型や着物の柄の変遷が追えます。「道中記」からは、各地の方言ですとか、名物・産物、町の様子や構成、風俗、物の値段などが記されています。また、有名な式亭三馬の『浮世風呂』などは、江戸の長屋住まいの人々の日常生活が詳細に描かれています。

小泉—— 「往來物」でいえば、それこそ江戸時

代のありとあらゆる事柄が書かれています。文化的な事柄、庶民の関心事、教育方針、子どもの遊びなど、それこそ何でもです。しかも時代時代に応じて内容も変化していきますから、江戸時代像をつかむのに、こんなに適したテキストはありません。

吉田—— 「往來物」の頭書（かしらがき。本文の上欄に書かれた注釈などの文章）も面白いですね。江戸っ子のための豆知識がたくさん書かれていて、まるで江戸時代版の雑学・博学事典といった様相です。

❖こうすれば読めるように

—— 版本にしても古文書にしても、学習方法に大きな違いはないと思いますが、お二人はどのような方法で版本



小泉吉永（こいずみ・よしなが）

—— 1959年東京都生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。学術博士。小中高校の教員、大空社などを経て、現在、元気21総合研究所勤務。往来物、女筆手本類研究の第一人者。ホームページは、http://www.bekkoame.ne.jp/ha/a_r/

を学習したのですか。

吉田—— 前号の「古文書かわら板」に「私の古文書学習法」という文章を書いたもので、ここでは簡単に申しますが、私は林美一先生の『江戸戯作文庫』（全十巻、河出書房新社）に収録されたさまざまな戯作物の原文と解説文を、それこそ一字ずつ照合しながら繰り返し覚えていきました。スタートは版本で、「かな」からです。五十一歳の時でした。庶民向けの版本にはふりがなが付いていますから、ふりがなを頼りにして漢字をいっしょに覚えていきました。

小泉—— 私は勤め先のあった神保町の古書店で、たまたま『庭訓往来』を見て「達筆な字だなあ」

原文と解説文を一字ずつ照合しながら
何度も繰り返し覚えていきました（吉田）

毎日三〇分の勉強を続けているうちに、
いつのまにか読めるようになっていました（小泉）

と感心して、そこに何が書かれているのかを知りたくて勉強を始めました。その時はくずし字の「く」の字も知らないまま多くの素人でした。

『庭訓往来』は平凡社の「東洋文庫」シリーズのなかにありましたので、吉田さんと同じように原文と対比させていきました。それから、自分で書いて覚えるのが一番良いと気づいて、大学ノートに筆ペンで模写したり読んだりということを経日三〇分くらいずつ続けました。そうしたら大半の文字は読めるようになりましたね。ある程度読めるようになると、今度は内容に興味を持ち始めて、それでとりこになってしまい、今に至ったという訳です。私は「写して覚

える」という方法を皆さんにすすめたいですね。

❖おすすめのテキストは？

——古文書講座と違って、版本のくずし字を扱う講座自体が少ないので、どうしても自宅での学習が中心になってしまおうと思うのですが、初心者は何から始めたらよいでしょうか。

吉田——現在、書店では手に入らないのですが、

私がテキストとして使っていた林美一先生の『江戸戯作文庫』がおすすめです。公立の図書館には置いてあるのではないのでしょうか。また、井原西鶴や式亭三馬、山東京伝、滝沢馬琴、十返舎一九など有名な作家の著作であれば影印本

（原本の写真版）が刊行されていますので、テキストになると思います。

小泉——簡単に手に入り、読みやすくて内容も面白

いのは『江戸名所図会』（角川文庫）ですね。

あと、私が編集で関わった『往来物大系』（全

一〇〇巻、大空社）は、大きな図書館に行かな

ければ置いていないかもしれませんが、江戸時

代に刊行された主要な「往来物」七五七点を収

録しています。また、『江戸の戯作絵本』（全六

巻、現代教養文庫、社会思想社）や『江戸の絵

本』（全四巻、国書刊行会）などもおすすめです。

吉田——厳密に言えば版本ではありませんが、

「写本」（原文を手書きで写したものの）の実録も

のもテキストとして優れていると思います。昨

年刊行した『寺子屋式 続古文書手習い』にも

載せた「大岡美談」や「精忠義士実録」は、内

容はもちろんのこと、なにより字がすごくきれいなのです。武勇伝や仇討ち、お裁き物、お家騒動など、講釈のテーマとなるものが多く作られ、テレビや時代小説の元となっているものばかりですから、楽しみながら学習できると思います。但し、いずれもフィクションですから史料的な価値は低いということを承知してください。

——本日はどうもありがとうございました。

（二〇〇六年七月二日／柏書房会議室にて）

※吉田氏の『江戸かな古文書入門』、『寺子屋式古文書手

習い』、『寺子屋式続古文書手習い』、アダム・カバット

氏の『妖怪草紙くずし字入門』の四冊（いずれも弊社刊）

が、版本の学習入門書として最適です

来年は富士山大爆発三〇〇年

青木美智男 *Aoki Michio*

❖初動対応の失敗

富士山が大爆発を起こしたのは、一七〇七年（宝永四）の十一月二三日である。来年でちょうど三〇〇年になる。「宝永の山焼け」と呼ばれるこの大爆発は、一〇八三年（永保三）以来、六二〇年後の爆発だった。『静岡県史』別編2「自然災害誌」によれば、富士山体内のマグマが長期間に変質して起こした現象で、甚大な被害をもたらすという。次の噴火も大爆発になる可能性があるが、噴火を止めることは出来ない。そこで被災後の初動で被災者をいかに立ち直らせ、二次災害をどう防ぐ

かが重要な問題となる。その点で「宝永の山焼け」での対応策を振り返ることは大いに参考になることだろう。

降砂は翌月九日ごろ終わった。降砂の範囲は駿河と相模・武蔵国の一部だが、小田原藩領だった富士・箱根山麓、足柄平野が多かった。秋の収穫後だが、山稼ぎも出来ず、麦作と馬飼料が全滅し、困窮は目前だった。しかし、小田原藩が被災地に派遣した役人が伝えたのは、自力で砂を除け、懸命に稼げ、ということだけだった。そこで小田原城付きの村々一〇四ヶ村は立ち上がり、江戸出訴

の行動に出た。そして、お救い米二万俵と砂除け金二万七千両の援助を執拗に求めた。強訴である。当時、小田原藩主の大久保忠増は幕府の老中だった。忠増は自分の立場と藩の命運にかかわる事態に困惑し、領民の要求に妥協するとともに、強訴があった事実を隠蔽し、事なきを得た。まさに初動対応のまずさが招いた事態だった。

◆ネコババされた国役金

まもなく大久保忠増は、被災全村約六万石を上知する方法で、問題の解決を幕府に委ねた。幕府は即刻全国の大名に砂除国役金の賦課を命じた。役金四万八千七百〇両余は期限通り納められた。しかし、砂除川浚奉行の伊奈忠順に渡った金は、六万二五九両に過ぎなかった。時の勘定奉行・萩原重秀は、残額を幕府の御金蔵に納め、一部をポケットマネーとした。伊奈が与えられた六万両

余で何をやるのか。最大の課題はもつとも降砂被害が甚大だった山麓と平野部を貫流する酒匂川さかの川浚いだった。そこで幕府は、岡山藩など五藩に普請手伝いを命じたが、わずかな資金でおざなりの改修しか出来なかった。こうして、一七一年（正徳元）七月の大洪水で足柄平野全域が水没するに至った。元に戻るの是一〇年後のことで、それまで農民たちは苦渋な生活を余儀なくされた。二次災害はこうして起こったのだった。

宝永の噴火に関する詳細な研究は、永原慶二さんの『富士山宝永大爆発』（集英社新書、二〇〇二年）があるのみだが、相模中央部、武蔵三郡（橘樹・都築・久良岐）の被災状況にまでは及んでいない。大爆発三〇〇年を迎えるにあたり、再び二次災害を繰り返さないために、宝永噴火関係全史料を刊行の予定である。（あおき・みちお 専修大学教授）

本物の古文書を手にとってみる事ができる公共機関

※藤沢市文書館

所在地▼神奈川県藤沢市朝日町12-6

電話▼0466(24)0171

交通▼JR藤沢駅北口より徒歩8分

市レベルでは日本で最初に設立された文書館で

す。東海道藤沢宿の町名主文書や江の島惣別当岩本院文書(古河公方や小田原北条氏関係文書含む)など市内各地の諸家に伝わった文書一三万点余(マイクロフィルム文書含む)を収蔵しています。利用方法 閲覧室にある目録などで史料を特定し、受付に請求してください。館長が適当と認めた史料については複写が可能です。また、所定の手続きをすれば写真撮影も可能です。

※長野県立歴史館

所在地▼千曲市大字屋代字清水

電話▼026(274)2000

交通▼しなの鉄道屋代駅または屋代高校前駅から徒歩25分、長野電鉄屋代線東屋代駅から徒歩20分

長野県全県にわたる古文書や明治期からの長野県行政文書、明治期の測量図などを収蔵しています。古文書講座も開催しています。歴史博物館として常設・企画の展示があり、考古資料の閲覧もできます。

利用方法 閲覧室に備え付けの目録で古文書を特定し、閲覧申請してください。複写は写真撮影のみ認めています。

※岡山県立記録資料館

所在地▼岡山市南方2-13-1

電話▼086(222)7838

交通▼JR岡山駅より徒歩20分、JR岡山駅よりバス、跨線橋東下車、徒歩10分

足守藩主木下家文書、勝山藩家老文書をはじめ、岡山県に関する地域の古文書七万五千点を収蔵しています。岡山藩主池田家文庫などの館外資料はマイクロフィルムや複製本で所蔵し、また県行政文書も六万点所蔵しています。毎月テーマを決めて展示もしています。

利用方法 データベースや目録から資料を特定し、受付へ申請してください。マイクロフィルム化・複製本化されている資料は複写が可能です。

※大分県立先哲史料館

所在地▼大分市大字駄原587-1

電話▼097(546)9380

交通▼JR大分駅より徒歩25分、西大分駅より徒歩15分、JR大分駅よりバス、県立図書館前下車すぐ

大分県の先哲をはじめ、歴史と文化に関する史料を調査研究・収集しています。府内藩や臼杵藩の藩政史料や県内各地の諸家に伝わった文書、約四万四千点を収蔵しています。また、「大分県先哲叢書」を刊行しています。

利用方法 閲覧室に備え付けの目録で文書を特定し、係員に請求してください。マイクロフィルム化・複製化・デジタル化された資料は複写が可能です（寄託資料は所蔵者の許可が必要です）。

寺子屋検定クイズ 正しいのはどっち？

第2号に引き続き二択問題です。全体もしくは偏や旁が似ている間違えやすい文字を取り上げてみました。かなり難解ですが、挑戦してみてください。

問1 「夏」はどっち？

①

②

()

問3 「別」はどっち？

①

②

()

問2 「所」はどっち？

①

②

()

問4 「故」はどっち？

①

②

()

問5 「りっしんべん」の文字はどっち？

①

②

()

問8 「したごころ」の文字はどっち？

①

②

()

問6 「いとへん」の文字はどっち？

①

②

()

問9 「しんによう」の文字はどっち？

①

②

()

問7 「くにがまえ」の文字はどっち？

①

②

()

問10 活字に直した時の画数が多いのはどっち？

①

②

()

● 文字 ①1問、②6問、①8問、②7問、①9問、②5問、②4問、①3問、②2問、①1問

※書店と古文書講座

正文館書店

谷口潤治

正文館本店

所在地▼名古屋市中区東片端交差点角

交通▼地下鉄桜通線高岳駅下車、徒歩5分

電話▼052(931)9321

柏書房では、昨年一〇月に福岡市の書店「りーぶる天神」を皮切りとして、東京・神保町の三省堂書店神田本店、本年二月に長野市の平安堂、三月に東京・池袋のジュンク堂書店と山形市の八文字屋、四月に盛岡市の東山堂、五月に仙台市の紀伊國屋書店仙台店、六月に名古屋市の正文館書店、七月に和歌山市の宮井平安堂と、全国九か所で油井宏子先生を講師とした古文書講座を開催いたしました。今回は、正文館書店の谷口社長にご登場いただきました。

六月二四日（土）、待望の古文書講座を開催することができました。小社では、月に一度は企画を行なう計画で、フロアーコンサート、ワイン教室、サッカークラスなどの様々なイベントを開催してまいりましたが、今回の古文書講座は教養講座と位置づけることができる初めての企画になりました。

当日は、定員を大幅にオーバーした受講者で、狭い会場は熱気ムンムン。にもかかわらず、油井宏子先生の巧みな話術、そして何といってもそのお人柄の良さで、受講者の講義にのぞむ姿勢は真剣そのもの。素晴らしい雰囲気包まれ無事終了

しました。講座終了後、スタッフの間でも「いい講座だったね。またやってみたいね」という声があがっていたほどでした。

小社がこの企画に手を挙げさせていただいたのは、日本の文化・伝統・心を後世に正しく伝える役割を書店が担っていると考えているからです。最近の日本は大いに乱れ、犯罪の凶悪さはエスカレートするばかりです。教育面でも英語を小学校で必修科目にするなど、何か勘違いをしている方針を打ち出しています。こういう時だからこそ、日本の文化・伝統、そして本来の日本人の心を見直すべきなのです。

小社では、母国語コーナーを設けておりますが、これを機に、今後は日本の文化・伝統コーナーも常設しようと考えております。

(正文館書店・代表取締役社長)

通信講座

必ず読める。楽しめる。

古文書のいろは

古書の街＝神田神保町で生まれた古文書専門塾「てらこや」が通信講座をはじめました。

村方文書や町方文書、武家文書などを扱った、おもしろくためになるテキスト、詳しく丁寧な添削で、貴方の古文書学習を徹底サポートいたします！

申込受付中！



小学館 アカデミー

<http://www.komonjo.jp>



0120-072-465

受付時間／10:00～20:00 (土・日・祝日を除く)

古文書塾
てらこや

油井宏子先生が 新聞で紹介されました

〔東京新聞〕「中日新聞」二〇〇六年五月七日

少し前までは古くさい趣味や教養と思われるていたものが、いま静かなブームを呼んでいる。書、日本語、時代小説、写経、寺社めぐり、郷土食、そして古文書も。

（中略）

「自分が住む町の地名が合併で消えて、足元が崩れてゆく不安から、地域の歴史を見直そうと古文書を学ぶ人が増えています。最初は外国語のようなくずし字も、読むコツやルールを覚えると、一枚の古文書から二百年も前の時代に生きた人間と対話ができ、歴史を直接、独力でつかみとるような喜びを覚えます」

油井さんが開いている古文書講座にも、数多くの老若男女が参加して盛況と言う。その成果をまとめたのがこの入門書（編集部注・『古文書はこんなに魅力的』）。既に『古文書はこんなに面白い』という本もある。

借金苦で家族を捨てて村を逃げたお百姓、売掛金の未回収に悩み日光参りをする手代の顛末など、ユニークな古文書を紹介し、文意と読み方を逐語的にレクチャーする。もちろん古文書の背景にある時代環境や、江戸の庶民たちの生活も紹介される。

句読点も主語も、会話を示す括弧もない文章ゆえ、文脈を読む力も想像力も必要だが、「音読して、文字を指でなぞり、じっと睨んで読むのです」と、早速コツを伝授された。

（大日方公男氏執筆）